

2023トライアスロン社会貢献事業の公募について
(地域支援事業から社会貢献事業へ)

2023年4月5日 公益社団法人 日本トライアスロン連合

地域支援事業の振り返り

- 2020年初旬から、コロナ禍で大会が開催できない状況が続き会員登録収入が減少、都道府県競技団体は活動継続の危機
- この状況に対し、各都道府県競技団体が実施する普及や育成などの取り組みを、JTUが物品提供やSNS・ウェブサイトでの告知を通じて、支援する取り組みを開始(=地域支援事業)
- この事業にNTT東日本・NTT西日本をはじめとするJTUパートナーが「地域支援事業パートナー」として参画
- 2020年から2022年までの3年間の累計で635事業を実施・支援させていただいた



- 2023シーズンは、依然、コロナの影響はあるものの、大規模イベントが容認される状況となり、大会開催も2019と同等水準に戻ってきた
- 「コロナ禍という緊急状況下でのトライアスロン関連の活動継続」を目的とした地域支援事業は終了

これまでの地域支援事業

コロナ禍で大会開催が難しいなか、
「トライアスロンの灯をともし続ける取り組み」として、
地域の草の根活動を支援



大会を失ったトライアスロン愛好者が
目標をもって活動を続ける場づくりをパートナーとともに支援
(こども教室・記録会等)



- スポーツ庁の第3期スポーツ基本計画では、「スポーツが社会活性化等に寄与する価値」を高めていく取り組みにも重点が置かれている
- 「**トライアスロンならではの価値**」を社会に還元することで、社会課題の解決や地域活性化に貢献することが今後、一層求められていく



第3期スポーツ基本計画（概要）

【第2期計画期間中の総括】

- ① **新型コロナウイルス感染症**：
 - ▶ 感染拡大により、スポーツ活動が制限
- ② **東京オリンピック・パラリンピック競技大会**：
 - ▶ 1年延期後、原則無観客の中で開催
- ③ **その他社会状況の変化**：
 - ▶ 人口減少・高齢化の進行
 - ▶ 地域間格差の広がり
 - ▶ DXなど急速な技術革新
 - ▶ ライフスタイルの変化
 - ▶ 持続可能な社会や共生社会への移行

こうした出来事等を通じて、改めて確認された

・「楽しさ」「喜び」「自発性」に基づき行われる本質的な『**スポーツそのものが有する価値**』（Well-being）

・スポーツを通じた地域活性化、健康増進による健康長寿社会の実現、経済発展、国際理解の促進など『**スポーツが社会活性化等に寄与する価値**』

を更に高めるべく、第3期計画では次に掲げる施策を展開

1. 東京オリ・パラ大会の**スポーツ・レガシーの継承・発展に資する重点施策**



持続可能な国際競技力の向上

- 東京大会の成果を一過性のものとせず、持続可能な国際競技力を向上させるため、
 - ・NFの強化戦略プランの実効化を支援
 - ・アスリート育成パスウェイを構築
 - ・スポーツ医・科学、情報等による支援を充実
 - ・地域の競技力向上を支える体制を構築



共生社会の実現や多様な主体によるスポーツ参画の促進

- 東京大会による共生社会への理解・関心の高まりと、スポーツの機運向上を契機としたスポーツ参画を促進
- オリパラ教育の知見を活かしたアスリートとの交流活動等を推進



スポーツを通じた国際交流・協力

- 東京大会に向けて、世界中の人々にスポーツの価値を届けたスポーツ・フォー・トゥモロー（SFT）事業で培われた官民ネットワークを活用し、更なる国際協力を展開、スポーツSDGsにも貢献（ドーピング防止活動に係る人材・ネットワークの活用等）



大規模大会の運営ノウハウの継承

- 新型コロナウイルス感染症の影響下という困難な状況の下で、東京大会を実施したノウハウを、スポーツにおけるホスピタリティの向上に向けた取組も含め今後の大規模な国際競技大会の開催運営に継承・活用



地方創生・まちづくり

- 東京大会による地域住民等のスポーツへの関心の高まりを地方創生・まちづくりの取組に活かし、将来にわたって継続・定着
- 国立競技場等スポーツ施設における地域のまちづくりと調和した取組を推進



スポーツに関わる者の心身の安全・安心確保

- 東京大会でも課題となったアスリート等の心身の安全・安心を脅かす事態に対応するため、
 - ・誹謗中傷や性的ハラスメントの防止
 - ・熱中症対策の徹底など安全・安心の確保
 - ・暴力根絶に向けた相談窓口の一層の周知・活用

トライアスロン社会貢献事業について

- 2023シーズンより、社会課題の解決・地域活性化を目的とした、「**トライアスロン社会貢献事業**」に取り組み
- トライアスロンの独自の特徴を活かすことができる、下記3つの社会課題解決につながる取り組みを都道府県競技団体から公募
- 都道府県競技団体とJTUが一体となって、トライアスロンならではの価値を地域に還元することで社会課題の解決をめざす

独自
特徴

複数種目を通じた健康効果

基本的な動作の組み合わせ
オリ・パラ貫した組織体制

自然環境で行われるスポーツ



社会
課題

高齢化による医療費増大
疾病による生きがいの喪失

こどものスポーツ離れ
幼少年期からの共生社会への理解促進

気候変動対策
環境保全



具
体的
な
取
組
み

地域住民の健康寿命延伸



小中学生へのオリパラ教室



ビーチ/パーククリーン・環境啓発活動



取組1 健康事業(健康ゆるゆるトライアスロン)

概要

目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 「健康スポーツ・トライアスロン」の知見を活用した、地域活性化への貢献 ● 地域住民の健康寿命の延伸による、生きがいをもるまちづくりへの貢献 ● 生活習慣病やロコモの未然予防による、自治体の医療費削減
開催実績	<ul style="list-style-type: none"> ● 仙台七ヶ浜、今治伯方島、山形寒河江など
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治体関係者(大会開催自治体の首長、議員、教育長など) ● 大会ボランティアの皆さま(自治体職員、一般の住民) ● 該当自治体に所在地を置く企業の経営者、従業員の皆さま ● 地域トライアスロンスクールのスタッフ、生徒
講師	<ul style="list-style-type: none"> ● 味の素 アミノインデックス事業部 ● NTT東日本・西日本/流通経済大学 准教授 田山 寛豪さん
実施内容	<p>当日のプログラム例(90分~120分程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生活習慣病リスク検査に基づく、生活習慣アドバイス ● 健康ゆるゆるトライアスロン運動プログラム実演

実施イメージ



取組2 こども向け事業(学校訪問、ジュニア向け体験会・練習会など)

概要

目的	<ul style="list-style-type: none"> ● こどもたちがスポーツに興味を持ち、楽しさや感動に触れる ● さまざまな障がいへの理解を深め、多様な特徴を持つ一人ひとりが活躍する共生社会について、自分ごととして考える機会を得る
開催実績	<ul style="list-style-type: none"> ● 仙台七ヶ浜、今治伯方島、お台場、宮崎、島根雲南市など
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学生(高学年)・中学生 ● 自治体、教育委員会職員など
実施内容	<p>当日のプログラム例(学校訪問の場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● オリンピアン・パラリンピアン講演 ● こどもたちからオリンピアン・パラリンピアンへ質問 ● パラトライアスロン解説 ● 目隠しリレー・片手靴履き(パラ体験) ● 競技用車いす試乗体験(パラ体験) ● 記念写真撮影

実施イメージ



取組3 環境保全事業(ビーチクリーン、環境啓発イベントなど)

概要

目的

- 地球を使ったスポーツであるトライアスロンの特徴を活かし、清掃活動や環境啓発活動を行うことで、環境保全や地球環境への意識向上につなげる

開催実績

- 石垣島、横浜、仙台七ヶ浜、お台場、宮崎、島根出雲市など

参加者

- 一版参加者、運営ボランティア
- 大会協賛、協力企業
- 自治体関係者

実施内容

当日のプログラム例(90分~120分程度)

- 砂浜を中心とした清掃活動
- こども向け海の生き物観察体験
- 漂着ごみアート制作
- キッズファンラン
- ガンダムリサイクル作戦2022(横浜)
- 記念写真撮影

実施イメージ

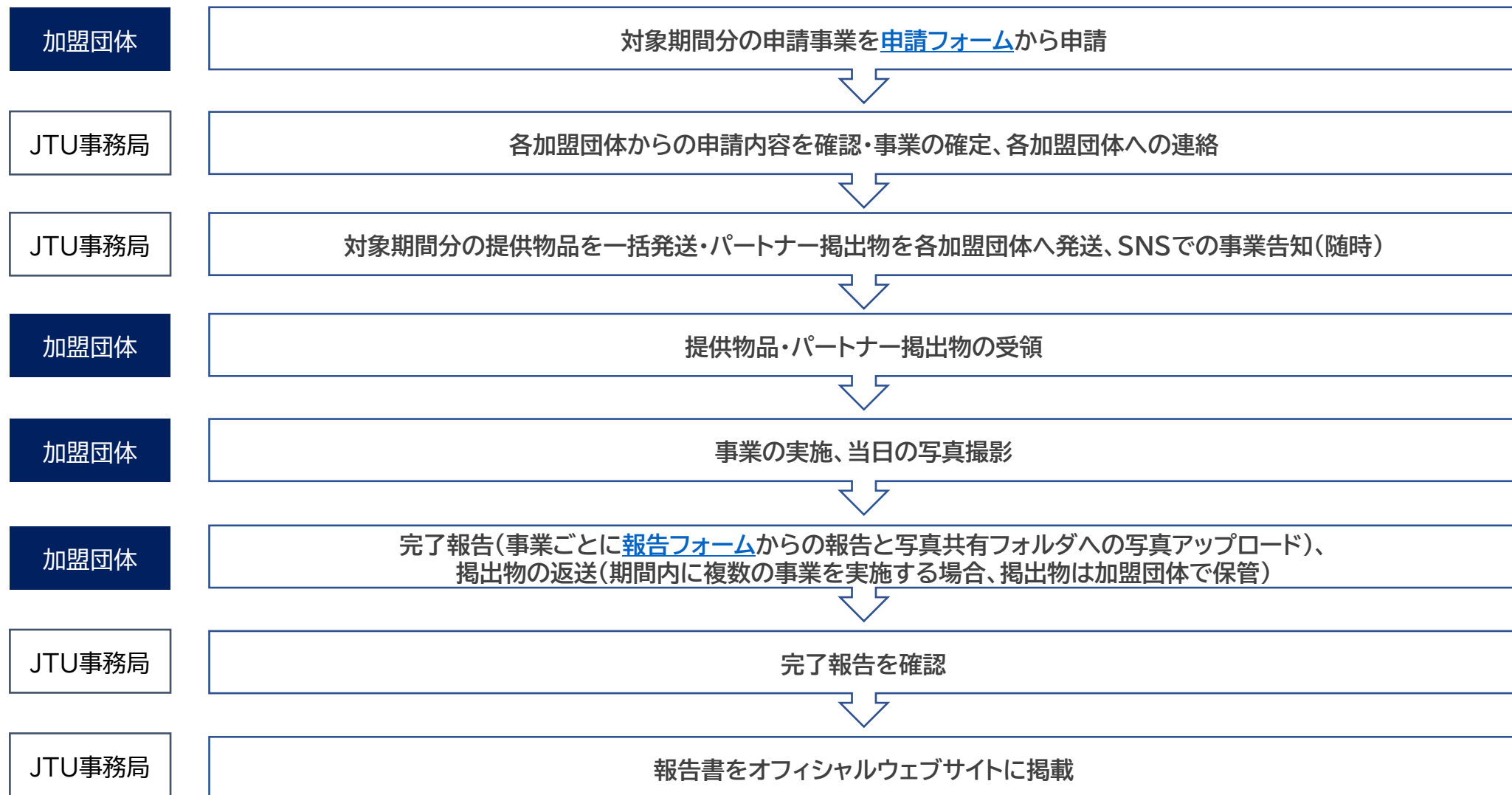


社会貢献事業と地域支援事業の違い

年度	2023	2022										
名称	トライアスロン社会貢献事業	トライアスロン地域支援事業										
目的	トライアスロンを通じて、下記の3つの社会課題解決をめざす取り組み ①少子高齢化による医療費増大、疾病による生きがいの喪失 ②こどものスポーツ離れ、幼少年期からの共生社会への理解促進 ③気候変動対策、環境保全	コロナ禍での加盟団体の活動継続を支援										
申請対象事業	原則、以下に該当する事業 ①健康事業(健康ゆるゆるトライアスロンなど) ②こども向け事業(学校でのオリパラ授業・ジュニア体験会など ※大会は対象外) ③環境保全事業(ビーチクリーン、環境啓発活動など)	①大会事業 ②普及イベント ③認定記録会										
受付期間	事業実施時期ごとにまとめて申請 <table border="1"> <thead> <tr> <th>申請期間</th> <th>事業実施時期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2023年4月5日～4月14日</td> <td>2023年5月1日～7月31日</td> </tr> <tr> <td>2023年7月3日～7月10日</td> <td>2023年8月1日～9月30日</td> </tr> <tr> <td>2023年9月1日～9月7日</td> <td>2023年10月1日～12月31日</td> </tr> <tr> <td>2023年12月1日～12月7日</td> <td>2024年1月1日～3月31日</td> </tr> </tbody> </table>	申請期間	事業実施時期	2023年4月5日～4月14日	2023年5月1日～7月31日	2023年7月3日～7月10日	2023年8月1日～9月30日	2023年9月1日～9月7日	2023年10月1日～12月31日	2023年12月1日～12月7日	2024年1月1日～3月31日	随時申請(事業実施の1か月前目安)
申請期間	事業実施時期											
2023年4月5日～4月14日	2023年5月1日～7月31日											
2023年7月3日～7月10日	2023年8月1日～9月30日											
2023年9月1日～9月7日	2023年10月1日～12月31日											
2023年12月1日～12月7日	2024年1月1日～3月31日											
JTUの支援内容	<ul style="list-style-type: none"> ・物品提供(スイムキャップ、アミノバイタル、トランジションバック) ・告知広報活動(ウェブサイト/SNSでの発信、特設ページへ活動報告掲載など) ・事業での実施内容の検討(実施プログラムの検討など) ・講師の派遣調整(オリンピック・パラリンピアンなど) ・機材の貸し出し(競技用車いす、パラトライアスロンパネルなど) ・報道機関への取材誘因サポート(取材依頼書のひな型の提供など) ※事業の内容に応じてご相談ください 	<ul style="list-style-type: none"> ・物品提供(スイムキャップ、アミノバイタル、トランジションバック、水) ・告知広報活動(ウェブサイト/SNSでの発信、特設ページへ活動報告掲載など) 										
運用オペレーション	提供物品は四半期分をまとめて送付、加盟団体に保管	事業実施の都度、提供物品を郵送										

*地域支援事業で実施してきた記録会等について、JTUオフィシャルSNSによる広報サポートは継続して実施します。

申請・実施の流れ



物品	アミノバイタル(粉末)	トランジションバッグ	スイムキャップ
イメージ			
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 粉末タイプとなります。飲料は各自ご用意ください。 	<ul style="list-style-type: none"> 提供可能な数には限りがあります。 	<ul style="list-style-type: none"> デザインや色の指定はできません 複数のサプライヤーの物品が混在する場合があります 提供可能な数には限りがあります

パートナー掲出物例



掲出をお願いするパートナーは、対象事業確定時にJTU事務局からお知らせします。